

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	国語		
担当者(Instructors)	山本 かほる	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択
実務家教員科目(Pro teacher course)			

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

国語科教育において、教師は最も重要な言語環境である。そこで基礎となる言語事項の知識や言語活動の技能について再確認し、教師に必要な国語力を培う。また、学習指導要領の精読を通して国語科の目標・内容を理解し、それを踏まえて国語科の授業構想を作成できるようにする。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	文法・語彙・漢字などの言語事項について再確認し、日常の言語生活を振り返りながら、演習を通して国語力について学ぶ。学習指導要領を精読した上で初歩的な教材分析を行い、国語の授業力の基礎を培う。使用する「小学校学習指導要領 国語」(平成29年告示)は授業資料として配付する。
当該科目と実務との関係(Relationship between course and practice)	小学校担任として約20年毎日国語の授業をしてきた中で、常に「国語科で伸ばすべきことばの力は何か」について考えてきました。現場では「国語の授業って難しいな」と悩む先生方の声も聞かれます。日常の言語生活の中から、あるいは国語教材や学習指導要領の中からヒントを見つけ、一緒に「ことばの力」について考え、みんな楽しんでアクティブに国語という教科の本質に迫っていきましょう。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション 国語力って何? どうしたら身につくの?	・本授業の内容や目的、評価基準などの概要を知る ・国語力の具体は何か、なぜ必要か、どうしたら身につくかについて考える	□
第2回	言語事項～国語力の基礎① (1) 文法とコロケーション	・読解・表現の基本となる文法・コロケーションについて学び直し、各自の言語生活を振り返って適切に表現しようとする態度を養う	□
第3回	言語事項～国語力の基礎② (2) 漢字	・読解・表現に欠かせない漢字力について 学び直し、キーボード入力時代のいま、漢字指導のあり方や手立てについて考える。	□
第4回	言語事項～国語力の基礎③ (2) 漢字 (3) 書写 ☆漢字テストを作って、採点してみよう	・漢字テストの出題・採点を体験し、漢字指導における字形指導や評価の問題点について考える。 ・「書道が苦手」な教員にこそ必要な、書写指導の基本について学ぶ。	□
第5回	言語事項～国語力の基礎④ (4) 語彙	・語彙が増えるメカニズムなど語彙論の基本を学び、どうしたら語彙が豊かになるかを考える。	□
第6回	言語事項～国語力の基礎⑤ (5) 話し言葉と書き言葉 (6) 敬語	・教員・社会人として必要な言葉の適切な使い方について再確認し、アクティビティを通して各自の言語生活を振り返る。	□
第7回	言語活動～書く (1) 悪文と良文	・ここまで学んだ言語事項の基礎を踏まえ、教師の卵としての自分の国語力を見直す。特に「書く」活動において陥りがちな悪文を避けるためにはどうしたらよいか、問題演習を通して学ぶ。	□
第8回	言語活動～話し合う (2) どうなったら話し合えたことになるのか	・「話し合う」とは具体的にどうすることか、どうなったら「話し合えた」ことになるのか、「何のために」話し合うのか、などを考えながら実際の話し合い活動を体験し、対話的な学びのあり方を追究する。	□
第9回	言語活動～読む (3) 「読解力」とはどんな力か	・PISA型読解力など、異なる種類の読解力が求められる複数の問題を解いてみて、読解力とは何かを考える。	□
第10回	国語科ってどんな教科? ～学習指導要領を読みこなす	・これまで学んだことと、国語科の学習指導要領とを照らし合わせて、国語科という教科の概要を再認識する。	□

第11回	授業構想を立ててみよう～①文学教材 4年「ごんぎつね」	・4年「ごんぎつね」を読み合っ、学習指導要領と照らし合わせながら、この教材でどんな力をつけさせたいのかを明確にした上で、おおまかな授業構想を作成する。	<input type="checkbox"/>
第12回	授業構想を立ててみよう～②説明文教材 3年「くらしと絵文字」	・3年「くらしと絵文字」を読み合っ、学習指導要領と照らし合わせながら、この教材でどんな力をつけさせたいのかを明確にした上で、おおまかな授業構想を作成する。	<input type="checkbox"/>
第13回	授業構想を立ててみよう～③詩教材 5年「生活の中で詩を楽しもう」	・5年「生活の中で詩を楽しもう」を読み合っ、学習指導要領と照らし合わせながら、この教材でどんな力をつけさせたいのかを明確にした上で、おおまかな授業構想を作成する。	<input type="checkbox"/>
第14回	授業構想を立ててみよう～④聞く・話す 2年「あったらいいな こんなもの」	・2年「あったらいいな こんなもの」を読み合っ、学習指導要領と照らし合わせながら、この教材でどんな力をつけさせたいのかを明確にした上で、おおまかな授業構想を作成する。	<input type="checkbox"/>
第15回	いま求められる国語教育 (1) アクティブラーニング (2) ICTの活用	・本授業で学んだ内容を振り返り、それを踏まえて、いま求められるアクティブラーニングやICTを活用した授業について学び、これからの国語教育を展望する。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

学習指導要領（小学校国語）や教科書教材やその参考資料など、配付された資料を使って授業前に予習し（2時間程度）、授業後に授業記録（考察を含む）や指定された教材の1時間の授業構想を作成する（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出された授業記録（考察を含む）や授業構想は添削・採点の上、翌週に返却します。提出物について全体で共有するべき課題が明らかになった場合、あるいは優れた授業記録及び授業構想について、パワーポイントなどで翌週フィードバック・解説します。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	言語事項の知識・技能について学習指導要領を精読して再確認し、教師に必要な国語力や国語科で教えたいことばの知識・技能について理解した上で、授業記録や授業構想を作成できるようにする。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	ことばによる思考力・判断力・表現力等を伸ばすための言語活動について、日常の言語生活や授業場面を通して考えたことを活かして、授業記録や授業構想を作成することができるようにする。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	国語科教育において教師は最も重要な言語環境であることを理解し、自分の言語生活について主体的に振り返り、考察したことを表現できるようにする。また、授業構想の作成において、子どもたちが進んで楽しく学べる手立てを、主体的に工夫できるようにする。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の講義記録や授業感想（記録用紙は配付）、授業で作成した授業構想

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN (ISBN)
1	小学校学習指導要領（国語）を配付	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		